

令和 3 年度 田原中学校 学校評価書【結果】

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1)基本目標

「人間の尊厳を重んじる教育を基盤に、生きる力をはぐくむことを目指し、未来を切り拓いていける生徒を育成する」

(2)具体目標(具体的な生徒像)

① 自ら学び実力のある生徒

(基礎・基本を確実に習得し、それらを活用する力を身につけるとともに、目標や、自ら学ぶ意欲をもった生徒を育成する)

② 心豊かで思いやりのある生徒

(自信や自己有用感、規範意識、思いやりをもった心豊かな生徒を育成する)

③ 健康でたくましい生徒

(生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力をもった生徒を育成する)

(3)生徒指標

「よく学び よく鍛えよ」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

・学校は、子どもたちにとって、「安心できる居場所」であること

・学校は、教職員にとって、「生き甲斐や遣り甲斐を感じる場所」であること

・学校は、保護者・地域の方々から、「信頼される場所」であること

上記のような学校を目指し、心のふれ合う豊かな人間関係に支えられた温かみのある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒の実態や学校や地域の特色を生かした教育課程の編成と実施に努める。

(2) 学習意欲を高める指導や基礎・基本の確実な定着を図る指導、さらには、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習の定着・充実を図ることにより、生徒一人ひとりが自ら学ぼうとする意欲の育成に努める。

(3) 生徒一人ひとりの共感的理解を基盤とした生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係を核とする学級集団づくりを通して、豊かな人間性や社会性の育成に努める。

(4) 道徳の時間や心の教育の充実を図り、生徒一人ひとりの道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や生徒が主体的に取り組む体験活動を通して、生徒の内面に根ざした心を育むことに努める。

(5) 家庭や地域との連携を図りながら、健康管理や体力づくりを推進するとともに、食に関する指導の充実を図り、生徒一人ひとりが将来にわたって心身ともに健康に生活していける指導に努める。

(6) 教育活動全体を通して発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し生徒一人ひとりの社会的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。

(7) 学校内の連携並びに家庭や関係機関との連携を図った特別支援教育を推進し、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導と長期的な視点に立った支援に努める。

(8) 田原地域学校園内の連携・強化を図りながら小中一貫教育を推進し、学校園教育ビジョンが掲げる生徒の育成に努める。

(9) 愛校心と互助の精神に支えられた望ましい人間関係や教育環境を整備し、良き伝統や地域の特性、教職員の創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進に努める。

(10) 学校・家庭・地域社会との連携を深め、共に歩む学校づくりを推進し、風通しのよい信頼される学校づくりに努める。

(11) 新たな教育課題等への対応と、業務時間の適正化や業務内容の精選に努める。

(12) 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、ICT等を効果的に活用しながら、グローバル化や情報化の一層の発展など、急激な時代の変化に向き合い、生き抜くための資質・能力を身につけさせる。

[田原地域学校園教育ビジョン]

自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- 1 教育基本法, 学校教育法, 学校教育法施行規則, 中学校学習指導要領, 地方教育行政の組織及び運営に関する法律, 県教育委員会の方針・宇都宮市学校教育スタンダード等の示すところに従い, 公教育の自覚のもとに全職員の理解と協力に努め本校教育課程を編成する。
- 2 教育課程の編成に当たっては, 生徒に生きる力をはぐくむことを目指し, 教育活動を展開する中で, 自ら学び自ら考える力をもつ生徒の育成を目指し, 学校教育目標を達成するよう次の事項に留意する。
 - (1) 地域や学校の実態及び生徒の心身の発達段階と特性を十分考慮し, 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図るよう, 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における相互の関連と調和について留意する。
 - (2) 生徒が主体的に学ぶ意志・態度・能力を身につけるよう各教科・道徳科・特別活動・総合的な学習の時間の指導内容について重点化を図るとともに, 創意工夫を生かした教育活動が展開できるよう留意する。
 - (3) 各学年の発達段階における基礎的・基本的事項及び諸学習能力が確実に身に付けられるよう指導内容の精選を行うとともに, 生徒の個性及び創造性等の伸長が図られるよう留意する。
- 3 道徳教育は, 学校の教育活動全体を通じて行うことを基本とし, 道徳教育充実のため, 教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに, 家庭や地域社会との連携を図るよう留意する。
 - (1) 道徳科, 各教科, 総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行う。
 - (2) 生徒の発達段階を考慮するとともに家庭や地域社会との連携を図る。
 - (3) 社会体験学習やボランティア活動, 自然体験活動などの豊かな体験を通して行う。
- 4 体育・健康の指導は, 学校教育全体を通じて適切に行い, 特に体力の向上及び心身の健康の保持増進については, 保健体育科の時間はもとより, 特別活動などにおいても十分指導できるよう留意する。
- 5 本校の生徒や地域の実態を適切に把握し, 組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくことに努める。
 - (1) 教育目標の実現に向け必要な内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
 - (2) 教育課程実施状況の評価・改善を図っていくこと。
 - (3) 教育課程実施に必要な人的・物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。
- 6 小中9年間の一貫した教育課程の編成のため, 具体的に次の点において連携を図り, 教育課程を編成する。
 - (1) 9年間で目指す人間像や育てたい資質や能力について, 小中共通の目標を設定する。
 - (2) 各種の体験活動やキャリア教育を児童生徒の発達段階に応じて, 系統的・計画的に編成する。
 - (3) 小中一貫の日を設定し, 教職員の研修や交流を具体的に進める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

「生徒一人ひとりの主体性を高める指導の充実」

- 自分のよさに気づき, 自信を持たせる指導の推進と強化
- ・ 活動の意欲を高め, 粘り強く取り組ませる指導の推進と強化
- ・ 自分の力でやり遂げる体験や場の設定の推進
- ・ 生徒のよさを認め, ほめて伸ばす指導の推進と強化
- ・ 互いに学び合う集団づくりの推進と強化

「基礎・基本を確実に習得させ, 自ら学ぶ意欲を育てる指導の充実」

- 自主的・主体的な学習態度育成の推進
- ・ 学びに向かう集団づくりの推進と強化
- ・ わかる授業を展開する工夫の推進と強化
- ・ 個に応じた指導実践の推進
- 小中連携による家庭学習の習慣化の推進と強化

【学 習 指 導】

「基礎・基本を確実に習得し, それらを活用する力を身につけるとともに, 目標をもち, 自ら学ぶ意欲をもった生徒の育成」

- 学習態度や学習習慣を身につけさせる指導の充実
- ・ 学習意欲を高める指導方法の工夫・改善や評価方法を目的とした校内授業研究会の実施
- ・ 習熟度別学習及びT.T授業やかがやきルームによる個に応じたわかる授業の推進
- 家庭学習の習慣化を図る工夫
- ・ 教育活動全体を通した言語活動の実践
- ・ 評価に関する研修会の実施

【児童生徒指導】

「望ましい人間関係の構築を図り、自主・自律の精神を育む生徒の育成」

- 自らすすんで気持ちのよいあいさつのできる生徒の育成
- ・ 正しい判断のもと、自分のよさを発揮できる生徒の育成
- ・ 豊かな人間性や社会性を身につけさせるためのSGEやSSTを取り入れた指導の工夫
(SGE:構成的グループ・エンカウンター SST:ソーシャルスキルトレーニング)
- Q-U検査を活用した学びに向かう学級集団づくりの推進
- SC及び教育関係機関との連携を密にした教育相談体制の強化

【健康(体力・保健・食・安全)】

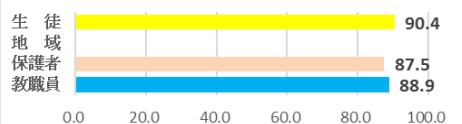
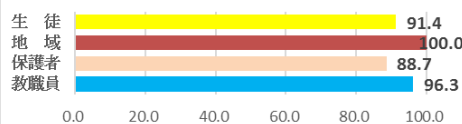
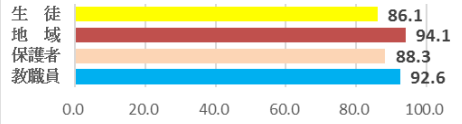
「自分の健康や体力に関心をもち、心身ともに健全でたくましく生きる生徒の育成」

- 基本的生活習慣の確立と望ましい食生活の定着(早寝・早起き・朝ごはん)
- 健康診断結果を生かした家庭との連携による効果的な健康教育の推進
- ・ 各種だよりを通じた家庭への啓発及び家庭における実践の推進
- 新型コロナウイルス感染症状況に対し、感染症対策を講じながら教育活動を工夫し着実に推進する。

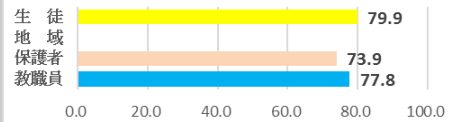
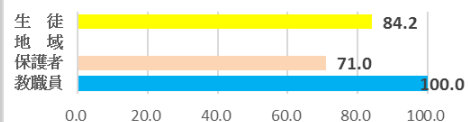
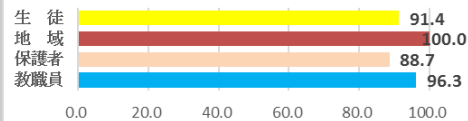
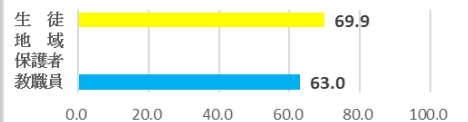
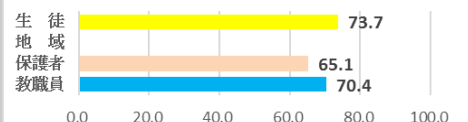
6 自己評価(評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。)

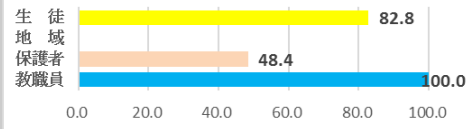
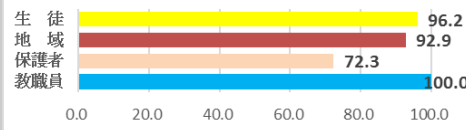
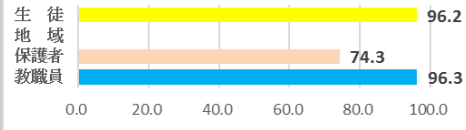
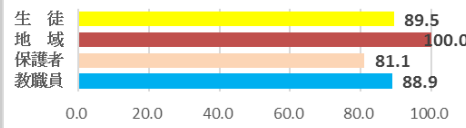
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

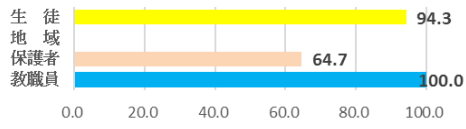
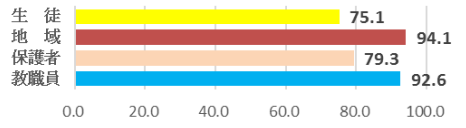
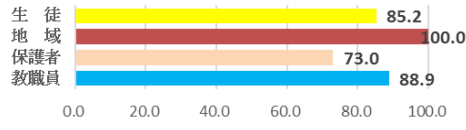
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 学習の「めあて」を明確に示し、生徒が自主的・主体的に学習に取り組む環境を整えとともに「振り返り」を必ず行う。 ② 「主体的に取り組む態度」の資質・能力の育成を意識した授業展開を工夫し、学びに向かう力の向上を図る。		 生徒 90.4 地域 87.5 保護者 88.9 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が90%に達した。 【次年度の方針】 ・R3年度の取組生かし、学習指導要領の内容を念頭において、具体策の実現を図る。
	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 ② 朝の会や帰りの会等で、生徒の善行を賞賛する機会を増やしていく。		 生徒 91.4 地域 100.0 保護者 88.7 教職員 96.3 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できた。生徒以外の三者ともに高い回答率を示している。 【次年度の方針】 ・左記の具体的な取組の一層の深化を図り、向上を目指す。
	A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 教職員は、日課表を基に、生徒にチャイムや学校のきまりを守って生活することの大切さを理解させる。 ② 言語環境を含め、安全・安心な環境整備に努める。		 生徒 86.1 地域 94.1 保護者 88.3 教職員 92.6 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できなかったが、生徒以外の三者は、それを上回っている。 【次年度の方針】 ・左記の具体的な取組の一層の深化を図り、生徒の意識向上を目指す。 ・生徒自身がお互いに注意し合えるような生活環境づくりに努める。

A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① GCR活動のG:(あいさつ)を充実させるため、生徒会を中心とした取組の充実を図る。 ・校内あいさつ運動の推進 ・地域学校園内のあいさつ運動の推進 ② 授業や学生生活の中で、その場に応じたあいさつの習慣化を図る。 ③ 生徒会・委員会活動での啓発を推進し、礼儀正しく、場に応じた言動がとれる生徒を育成して行く。	生徒 95.7 地域 94.4 保護者 82.5 教職員 77.8 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95%を上回る高い達成率であった。しかし保護者・教職員は8割程度である。 【次年度の方針】 ・教職員の率先垂範と共に、生徒会活動を中心とした生徒の主体的な活動がより充実するよう指導を工夫する。 ・あいさつ重点目標の明確化を図る。
A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① すべての学校教育の中で、発達段階に応じたキャリア教育を進めていく中で、今後の社会を積極的に形成することができる力を育成する。 ② 体験活動が生徒一人一人のキャリア形成の一助になるよう、それぞれの目標や課題に沿った活動になるよう支援指導を行う。	生徒 89.0 地域 77.9 保護者 88.9 教職員 88.9 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答を達成できた。 【次年度の方針】 ・田原中版「キャリア教育の目標」を教室に掲示し、学んだこと、経験したことが、どの目標につながっていくのかが具体的に分かるようにする。
A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	健康増進に関して ① 昼休み、校庭や体育館において身体を動かす呼びかけをする。 ② 放課後、積極的に部活動に参加するよう促す。 ③ 「姿勢の日」活動による啓発指導 食育に関して ① 家庭科と連携した栄養指導の実施 ② 給食委員会によるマナー指導 ③ 「お弁当の日」を活用した栄養指導 ④ 小・中連携した給食指導の実践 安全教育に関して ① 避難訓練等に課題意識を持って積極的に参加させる。 ② 日頃から、危険箇所について意識させ、身を守ることを第一に、危険管理能力を育成する。	生徒 96.2 地域 94.4 保護者 89.0 教職員 100.0 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 【達成状況】 ・四者ともに高い達成率である。 ・生徒、教職員ともに R2 よりも 5%程度上回っている。 【次年度の方針】 ・各委員会での活動を継続して実施し、具体策を実践しながら更なる成果を上げる。 ・感染症予防における啓発指導 ・朝食の欠食生徒を減らすための取組
A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 地域ボランティアに積極的に参加させると共に、中学生が活躍できる場の開拓を進める。 ② 2年生で実施する「宮っ子チャレンジ(社会体験活動)」柱に、キャリア教育を学校教育の多くの場面で充実させて行く。 ③ 進路の実現に向けて、ガイダンス機能を充実させると共に、個に応じた指導の工夫を進める。	生徒 89.0 地域 77.9 保護者 88.9 教職員 88.9 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 【達成状況】 ・A5に同じ 【次年度の方針】 ・左記具体策の計画、実践、評価の充実を図る。
A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 外国語の授業や総合的な学習の時間などでの言語活動の充実を図る指導により、コミュニケーション能力を高める。 ② 修学旅行や宮チャレなどの校外活動等の機会を活かして、積極的に外国人とのコミュニケーションを図らせる。	生徒 82.8 地域 85.2 保護者 85.2 教職員 85.2 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答 85%に至らなかった。 【次年度の方針】 ・外国語の授業における生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。

A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 社会科の教科指導の中で、地理や歴史において宇都宮市と比較させ、理解を深める機会を増やす。 ② 食育及び委員会活動における地産地消や郷土の食文化の紹介等の取組みを通して、宇都宮市の良さに触れさせる機会を増やす。	 【達成状況】 ・R2 に比べ、生徒、保護者ともに肯定的回答が約 20%あがっている。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の授業を通して、宇都宮の歴史、文化、まちづくり等を各学年で段階的に学び、知識や理解を深める。
A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 読書活動や NIE 活動の積極的な推進で、図書資料等を学習に活用する力を高める。 ② GIGG スクール構想での生徒1人1台PC 端末の導入において、各授業で積極的にICT機器を活用していく。 ③ 教師が積極的にICT活用に対する研修を重ね、パソコン教室及び個人用PC 端末の活用により授業力向上を図る。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できた。 【次年度の方針】 ・個人用PC端末や図書の利用をバランスよく取り入れ、各授業での活用力を高めていく。
A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 地域学校園全体で連携を図り、効果的な道徳教育を行い、それを地域学校園で実践することで、地域の高齢者に対する感謝やいたわりの気持ちを高める。 ② 地域協議会主催の特別養護施設訪問事業への交流のあり方を考えながら、心の教育を図っていく。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できた。 ・四者ともに高い達成率である。 【次年度の方針】 ・総合的な学習での「福祉」に関する項目の見直しを図り、生徒の知識や意識のさらなる向上を図る。
A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① PTAや生徒会を中心に行っているペットボトルキャップの回収やリサイクル、ゴミの分別等に積極的に協力させ、環境への意識を高める。 ② 各教科指導の中で、持続可能な社会についての関連等に触れると共に、実現に向けた工夫について考えさせる機会を増やす。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答を達成できなかった。 ・R2 に比べ、教職員は 63%まで達成率が上がっている。(37%上昇) 【次年度の方針】 ・PTAや生徒会を中心に「持続可能な社会」への意識を高める。
B1 生徒は、主体的に家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 毎週水曜日を「家庭学習の日」とし部活動なしで一斉下校させる。 ② 生徒が主体的に学習に取り組めるよう、課題の出し方を工夫する。 ③ 学年に応じた自主学習を推奨する。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できなかった。 ・保護者、教職員ともに 70%以下にとどまっている。 【次年度の方針】 ・引き続き、左記の具体的取り組みを実践し、家庭学習への意欲と内容の充実により学力向上につなげていく。 ・家庭学習の成果の点検と評価の仕方の工夫をする。

目 指 す 学 校 の 姿	B5 生徒は、学習活動において、積極的に個人用PC端末を活用している。 【数値指標】(R3 新規) 生徒の肯定的回答 80%	① 授業において、積極的に個人用PC端末を活用する。 ② 家庭学習においても、持ち帰り時には、個人用PC端末を利用した課題に取り組む。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できた。 【次年度の方針】 ・個人用PC端末の使用において、「約束やきまり」を理解させながら、各授業での活用力を高めていく。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 随時、生徒一人一人の課題を全職員で共有しながら、適切な支援を行う。 ② 市教育センター等との連携を図りながら、実態に応じた適切な指導の情報を得たり、指導を仰いだりし、教職員の指導力を高める。	【達成状況】 ・肯定的回答 88.9%で数値指標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・教育相談部会や職員研修を通して、教職員が情報共有しながら、左記の具体的取り組みを継続して行い、適切な支援をする。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 ② 「いじめ防止アンケート」等の教育相談機能により、早期発見に努めると同時に、いじめの根絶をめざし、組織としての的確な対応を行う。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できた。 【次年度の方針】 ・左記の具体的な取り組みを実践し、家庭や地域と連携しながら、「いじめ防止」に対する対応を強化していく。 ・学校だよりやホームページを利用し、「いじめ防止」に対する啓発を図る。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 ② 「Q-Uアンケート」等のアンケート調査結果や毎日の日録指導を通して、生徒の一人一人の課題の把握や心に寄り添う指導を進める。	 【達成状況】 ・数値指標を達成できた。 【次年度の方針】 ・適宜、SC・MSとの連携を図りながら引き続き、家庭との連絡を密にし、左記の項目を実践していく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 ② 随時、対象生徒の課題等を全職員で共有しながら、各関係機関等との連携を図りながら、適切な支援を行う。	【達成状況】 ・肯定的回答 88.9%で数値指標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・引き続き、左記の項目を実践しながら、適切な支援をしていく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 本校の特色ある取組みの一つであるGCR活動で、生徒に活動の検証をさせながら自主的・主体的に取り組むようにする。 ② 茶道教室を通して、日本の伝統文化に対する興味・関心を高めるとともに、豊かで心穏やかな心情を育む。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できた。 【次年度の方針】 ・左記の具体策を実践し、保護者との連携を深めながら、明るく活気ある学校づくりを目指すとともに学校行事や生徒会行事における計画・運営において、リーダーを育成し、明るく生き生きと実践できるようにする。

A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 授業の中で、「めあて」を黒板に書くことや、「振り返り」を必ず行い、何を学習したのかを、生徒に確認させる。 ② 全教職員により、計画的に研究授業・研究協議を実施し、指導力の向上に努める。 ③ 個人用PC端末の活用による授業の導入・内容・振り返りの工夫を図る。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できた。 【次年度の方針】 ・教職員が校内研修や校外での各種研修に積極的に取り組み、指導力向上を図る。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 教育目標及び学校経営の方針を全教職員が意識し、全教育活動でそれが生かせるように業務を進める。 ② 各部会を核に、関係職員が情報を共有しながらSCやMS等の専門性を活かし連携を図る。	【達成状況】 ・肯定的回答 77.8%で数値指標を達成できなかった。(R2 より 15.7%ダウン) 【次年度の方針】 ・校務分掌の明確化と系統化を図り、教職員の連携協力を強化する。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%	① 教職員一人一人が勤務時間の管理を行い、現状を数値で確認する。 ② 指導のねらいを常に意識しながら、準備等の分担や精選を行うなど、業務の効率化に励む。	【達成状況】 ・肯定的回答 74.1%で数値指標を達成できなかった。(R2 より 6.4%アップ) 【次年度の方針】 ・勤務時間を意識することにより、業務内容の精選や効率化を目指す。そのため、現状において実践できる内容を教職員で考え取り組んでいく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 田原地域学校園(他2つの小学校)において、運営会議を定期的に関き、小・中の連携を図る。 ② あいさつ運動や冒険活動教室の協同実施、中学校訪問等、小・中合同で実施する行事の一層の充実を図る。 ③ 新しい小中一貫教育や地域連携のあり方を考え、生徒会活動等を通して実践していく。	 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できなかったが、R2 に比べ、10%上がっている。 【次年度の方針】 ・地域学校園組織の見直しを図る。 ・生徒会主催の小中交流を充実させ、生徒の達成感を高めていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答 85%	① 田原学校園地域協議会(他2つの小学校)において、運営会議等を定期的に関き、教育講演会や音楽のつどい、あいさつ標語コンクールを実施する。 ② 地元消防団や特別養護施設(老人ホーム)等との連携を図り、共同開催の行事の充実を図る。	 【達成状況】 ・肯定的回答の平均は 86.7%であったが、保護者の肯定的回答は 73%と低かった。 【次年度の方針】 ・地域の教育力を生かしながら、さらなる教育活動の展開を図る。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 85%	① PTAや地域協議会と連携し、学校教育活動を通して、交流を深め、支援・協力を得る。 ② 地域社会と連携し、積極的にボランティア活動や行事への参加・協力をする。	【達成状況】 ・A22 に同じ 【次年度の方針】 ・左記の具体的な取組を確実に実施すると共に、活動の工夫を図っていく。

本校の特色・課題等	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 90%	① 学校における施設・用具等の整理整頓及び計画的な修繕と、委員会を中心としたGCR活動のC(清掃)にも力を入れる。 ② PTAや地域協議会の協力のもと、花壇や学校農園の充実を図る。 ③ 学校施設開放や避難所開設時の環境づくりの推進を図る。	【達成状況】 ・三者とも数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、左記の具体的取組を実践し、活動を工夫しながら、安全な学校環境作りに努める。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	① 担当を中心に、ICT機器の一層の活用を呼びかけると共に、管理及び活用状況の把握に努め、機器の充実に努める。 ② 図書の購入希望を教職員及び生徒に募る等、工夫しながら図書室配架の充実を図る。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が 80%達成できていない。 【次年度の方針】 ・目的に応じたICT機器や図書の購入計画を実践し、学習に必要な環境を整える。
	B2 生徒は、相手と目を合わせてあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① GCR活動のG:(あいさつ)を充実させるため、生徒会を中心とした取組の充実を図る。 ・校内あいさつ運動の推進 ・地域学校園あいさつ運動の推進 ② 生徒会・委員会活動での啓発 ・ビデオやTVを利用し、啓発の仕方を工夫する。 ③ GCR活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が 88.5%にとどまり、達成できなかった。 【次年度の方針】 ・生徒会が中心となり、年度初めにGCR活動を全校生徒にPRする。(B3,B4同様) ・重点目標の明確化を図る。
	B3 わたしは、清掃活動に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① GCR活動のC(清掃)の一層の充実を図る。 ・全教職員による率先垂範 ・時間で始め時間で終わる指導の徹底 ② 生徒会・委員会活動での啓発 ・無言清掃、清掃コンクール等の実施 ・委員会朝会での啓発活動の実施 ・清掃の仕方VTRによる啓発 ③ GCR活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は達成できた。 【次年度の方針】 ・他の委員会との連携協力を図りながら、清掃活動へのさらなる向上を目指す。
	B4 朝の読書の時間のみならず日常的に読書をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① GCR活動のR(読書)の一層の充実を図る。 ・朝の読書(10分間)実施 ・担当教員(担任)による率先垂範 ② 生徒会・委員会活動での啓発 ・多読コンクール等の実施 ・給食委員会とのコラボ企画等を通した啓発活動の実施 ・図書室の配架や学級文庫の充実 ③ GCR活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。	【達成状況】 ・日常的な読書習慣までには至っておらず、生徒、保護者ともに7割を下まわっている。 【次年度の方針】 ・図書の利用への啓発 ・GCR活動推進委員会での活動の見直し ・日常的な読書への啓発

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、評価書文頭の1から4の目標・理念・方針のもと、

学習指導では、「基礎・基本を確実に習得し、それらを活用する力を身につけるとともに目標をもち、自ら学ぶ意欲をもった生徒の育成」

生徒指導では、「望ましい人間関係の構築を図り、自主・自律の精神を育む生徒の育成」

健康指導では、「自分の健康や体力に関心をもち、心身ともに健全でたくましく生きる生徒の育成」

というテーマを掲げ、取り組んできた。

また、小中9年間の一貫した教育課程の編成のため、具体的に次の点において連携を図り、教育課程を編成した。

○9年間で目指す人間像や育てたい資質や能力について、小中共通の目標を設定する。

○各種の体験活動やキャリア教育を児童生徒の発達段階に応じて、系統的・計画的に編成する。

○小中一貫の日を設定し、教職員の研修や交流を具体的に進める。

今年度の取り組みについてのアンケート調査の結果をもとに考察を記述したい。

【令和2年度との比較】

・生徒の肯定的評価について

20項目中、12項目の肯定的割合がアップしている。中でもA10、A25「ICT機器や図書の活用」では25.7%、A21「小中一貫・地域学校園の取組」では10.7%アップしている。B1「主体的な家庭学習」では、5.4%ダウンしているため、生徒の主体的な家庭学習の定着を図っていく必要がある。

・地域住民の肯定的評価について

9項目中、2項目アップしている。どの項目も地域住民からは、高い評価を得ている。

・保護者の肯定的評価について

19項目中、7項目アップしている。特にA9「宇都宮の良さ」に関しては20%、A10、A25「ICT機器や図書の活用」では8.7%アップしている。しかし、A14「いじめ対策」、A21「小中一貫・地域学校園の取組」では約5%、A22、23「地域連携」に関しては、8.7%ダウンしている。

・教職員の肯定的割合について

24項目中、11項目アップしている。特にA12「持続可能な社会」に関しては37%、A5、A7「夢や目標」では21%、A9「宇都宮の良さ」、A10、A25「ICT機器や図書の活用」で19%、B4「日常的な読書」では16%アップしている。しかし、A19「チーム学校」では、15%ダウンしている。

【市平均との比較】

・市平均との比較において、市を上回っている項目が生徒で8項目、地域住民で4項目、保護者で1項目、教職員で10項目あった。特に生徒ではA21「小中一貫・地域学校園の取組」が市よりも13.1%、教職員でA5、A7「夢や目標」、A6「健康や安全」、A20「勤務時間と効率化」、A21「小中一貫・地域学校園の取組」がそれぞれ5%以上、上回っている。それ以外の項目では、市と同等か4者平均がやや下回っている状況である。

下回っている項目に関しては重点的に見直し、次年度に向けて改善を図っていく必要がある。

7 学校関係者評価

【学習に関する項目】

質問 A1「生徒は、進んで学習に取り組んでいる。」では、生徒の肯定的回答が90.4%であった。授業における「めあて」を明確にし、自主的・主体的に取り組む態度を育てながら、学力向上を図りたい。また、授業の「振り返り」を次時に生かすことも「学びに向かう力」の育成の大きな糧になると考える。

質問 A8「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」では、生徒の肯定的回答が82.8%、教職員が85.2%であった。引き続き、外国語の授業を中心にコミュニケーション能力の向上を図ることが重要である。

質問 A10・A25「生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」では、生徒の肯定的回答が8割を超えた。今年度は、GIGAスクール構想の初年度で個人用PC導入による授業展開や活用が大きな課題となった。次年度も目的に応じたICT機器や図書の活用を実践していくことが重要である。

質問 A9「生徒は、宇都宮の良さを知っている。」では、昨年度に比べ、生徒・保護者ともに肯定的回答が20%アップしている。引き続き、「宇都宮学」の授業を通して、宇都宮の歴史、文化、まちづくり等を各学年で段階的に学び、知識や理解を深めることが大切である。

質問 A12「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」では、生徒の肯定的回答が指標の80%に達成できなかったが、教職員評価は昨年度より37%上昇している。生徒会を中心とした各委員会活動での「SDGs」の取組を計画し、実践していきたい。

【生活に関する項目】

質問 A2・A11「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもっている。」では、4者の評価ともに高い達成率を示している。地域住民に関しては、100%の肯定的回答が得られた。田原中生徒には、「思いやりの心」を持った子が多数いることの表れであり、とても喜ばしい結果である。定期的に生徒から友人の善行の様子を収集し、朝の会や帰りの会等で賞賛したり、掲示したりする機会をつくることにより、相互理解と互いに高めあう集団づくりを実践している。

質問 A3「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」では、教職員・保護者・地域住民ともに高い達成率をあげている。生徒の肯定的回答は86.1%であったため、生活の中で生徒自身がお互いに注意し合えるような生活環境づくりに努めながら、生徒評価90%以上を目指していく。

質問 A5・A7「生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」では、生徒の89.0%という評価に対し、保護者評価は、77.9%という結果であった。夢や目標に向かう気持ちは義務教育卒業後も大切な要素となってくる。中学時代に様々な場面で何事にも粘り強く取り組む姿勢を培っていく指導をしていく。また、田原中版「キャリア教育の目標」を教室に掲示し、学んだこと、経験したことが、どの目標につながっていくのか具体的に分かるようにする取組を実践している。

質問 A6「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」では、生徒・地域住民・教職員ともに、90%を超える達成率であった。保護者も 89.0%と高い達成率を示している。次年度は感染症予防における啓発指導の強化や朝食の欠食生徒を減らすための取組を実践していく。

【小中一貫・地域学校園の取組み(質問 A21)】

○生徒・保護者ともに 70%台の達成率であった。次年度に向けて地域学校園組織の見直しを図っているところであり、組織間の連携を強化しながら、生徒会主催の小中交流を充実させ、生徒の自己肯定感や達成感を高めていく。

【特色ある学校づくりに関する項目】

質問 B1「生徒は、自分から家庭学習に取り組んでいる。」では、生徒・教職員は 70%台の達成率だが、保護者は 65.1%であった。家庭学習への意欲向上や課題提示の工夫などの改善を重ね、保護者と連携しながら達成率向上を図っていく。また、家庭学習の成果の点検を実施し、評価の仕方の工夫をする。

質問 B2「生徒は、相手と目を合わせてあいさつをしている。」では、生徒の肯定的回答 88.5%で昨年より 1.5%程度下回った。を達成した。本校の特色GCR活動の目標である「目をあわせて「あいさつ」を」という項目であるが、前述した質問 A4 の生徒回答よりも 7.2%低い。「目をあわせて」という行動においては、生徒はやや難を示していることが窺える。

質問 B3「生徒は、清掃活動に積極的に取り組んでいる。」では、生徒肯定的回答が 91.4%という高い結果が得られた。校内の清掃に対する意識が高まってきおおり、時間内での集中した清掃活動が行えている。校内でのGCR活動推進の成果は出ている。生徒会の各委員会との連携を図りながら、家庭や地域社会においても清掃の意識が出てくるような取組みが重要である。

質問 B4「生徒は、朝の読書の時間のみならず日常的に読書をしている。」では、数値指標を大きく下回っている。特に、保護者・生徒ともに、それぞれ 41.0%・66.0%と低い。校内での「朝の読書」に関しては、GCR活動での図書委員による啓発や学級文庫の利用等で成果は上がっている。引き続き、日常的な読書啓発に力を入れてGCR活動の推進を図る。

質問 A22「学校は地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」及び A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。」では、学校関係者評価での肯定的回答は 100%、評価者 4 者の肯定的回答の平均が 86.7%で数値指標を達成できた。次年度は地域協議会主催による「たわら未来塾」を計画中である。

質問 A25「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」では、学校関係者評価での肯定的回答は 100%、生徒を除く評価者3者の肯定的回答が 95.4%で高い回答率を達成できた。

地域社会との連携・協力においては、引き続き、生徒ができる活動を精選した上で実践を重ね、生徒の育成に取り組むとともに、安全に配慮した地域に開かれた学校づくりを目指していくことが重要である。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組では、コロナ禍による制限がかかる中、各部会ごとに連携を深めたり、第3回の小中一貫の日をオンラインで実施したりすることにより、昨年度以上の成果を上げることができた。令和5年度からの取組を見越して、令和4年度からの組織の見直しも図っている。さらなる連携強化により、地域学校園内児童生徒の学力向上や児童生徒の小中交流のための施策を計画実践していきたい。

・項目 A13「16」特別な支援・適切な支援対策」88.9%、A14「いじめ対策」90.4%、A15「不登校対策」88.9%という平均結果である。生徒・教職員は 90%を超えている。SC(スクールカウンセラー)やMS(メンタルサポーター)との連携を図り、各対策に取り組んでいく。

・項目 A17「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」に関しては、評価者 4 者の肯定的回答がともに 80%を超え、平均は 89.8%であった。引き続き、保護者や地域への情報発信を行うことにより、地域に開かれた「活気ある学校」「明るい学校」づくりに取り組んでいきたい。「教職員の明るさや活気が生徒の明るさや活気につながる」ことを念頭に置き、学校経営をしていきたい。

・学校業務に関する項目 A19「チーム学校」では、昨年度はR1よりも 20%アップする成果が出ていたが、今年度は 15.7%ダウンし 77.8%という数値にとどまった。校務分掌の見直しと系統化を図り、チームでの協力体制を強化していきたい。A20「業務改善・効率化」の面では、R2よりも 6.4%アップし 74.1%であった。引き続き、業務内容の精選をしながら、業務改善・効率化を実践していきたい。そして、業務改善面の向上が生徒の育成・成長につながるような学校経営をしていきたい。

・項目 A23「家庭・地域・企業等との連携」A24「安全に配慮した学校環境づくり」に関しては、本年度も交流・連携が図れなかった事業が多々あった中で、「河内西消防団の学校プール清掃協力」「プランターへの花植え」(地域協議会)、「学校環境整備作業」(機動班)の協力で校内環境整備の充実ができた。また、新型コロナウイルス感染防止のための物品や学校環境整備のための物品等をPTAの協力により購入することができた。PTA・地域の協力にありがたく感謝する次第である。

さらに、市との連携によりPTA会議室のLED照明化や優先避難所へのコロナ関連グッズの配備を進めることができた。

本年度は、幸い避難所として体育館を使用することがなかった。次年度も大きな災害がないことを祈るばかりだが、万が一の災害時に備えた避難所の整備と運営を近隣自治会や地区防災会、地区市民センターと連携をとりながら、次年度以降も進めていきたい。